

第 29 回議会報告会 報告書

地 域 名	出合地域		
年 月 日	令和 8 年 4 月 22 日 (水)	会 場 名	であいの里
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参 加 数	男性 25 人	女性 1 人	合計 26 人
班 長	浄慶耕造	司 会 者	浄慶耕造
報 告 者	深澤 巧、川瀬 稔、塚本正彦	書 記	浄慶耕造
班 員 名	浄慶耕造、深澤 巧、川瀬 稔、塚本正彦		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑 (意見交換会での質疑)	<p>① 物価高対策としてやっふるカードに一人 15,000 円の給付が行われる。ありがたいが、税が持つ所得の再分配という観点に立てば収入の少ない人に手厚く、多い人には減らすなどして、市民全体が安定した生活を送れることを基本に施策を考えるべきではないか。</p> <p>② 八鹿病院への資金援助だけでは根本的な解決にならず、再び資金が枯渇するのを待つだけになるのではないか。長年の経営不振を解消するために経営方法そのものへのテコ入れが必要ではないか。</p> <p>③ 関宮小さな拠点の立派な建物が完成したものの、その中身が未定なものが多い。市民感覚としては中身が固まってから建物を建てるのが自然の順序であり、現状の進め方に違和感がある。補助金目当てで拙速に工事を進めたとみなされても仕方がないのではないか。</p>	<p>① 今回の物価対策は国の交付金により実施されるため、国が示すメニューに沿っている。水道基本料金の 2 カ月無償化もその一つだ。やっふるカードも生活支援を重点に大型チェーン店でも使えるようになる見込み。今後、市の独自財源で行う助成については、より厳格に優先順位をつけていく必要がある。</p> <p>② 診療報酬が公定価格で抑えられている中で、物価や医療資材、人件費などの高騰で一気に赤字幅が拡大した。財政支援を行っている間に、八鹿病院が存続するために必要な選択についてしっかりと定め、市民に PR して理解を求める努力が必要だ。</p> <p>③ この事業は 20 億円を超える大規模事業であり、市発足以来、やぶ市民交流広場、八鹿青溪中学校に次ぐ大型事業である。合併特例債や公共施設管理基金などを財源としている。反省点として予算を債務負担行為で先行確保したことが、議会への無言の圧力となった。一方で、この計画は関宮地域の住民から上がった声でスタートしており、中山間地の拠点が重要ということだ。</p>	

市 民	対 応
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">報告に対する質疑（意見交換会での質疑）</p> <p>④ 区長会から関宮小さな拠点について要望書を出したが、この実施計画が絵にかいた餅になっていないか。3月で一旦締め切った、運営会社やテナント業者の募集の結果はどうだったのか。現在入居が決まっているのは社会福祉協議会だけで、他は未定ではないのか。当初計画から大きく状況が変わっていることを議会も重く受け止め市側に迫ってほしい。</p> <p>⑤ 学校給食の調理配送の民間委託が議論されているが、アレルギーの子どもが心配だ。養護教諭、栄養教諭、調理員の流れで献立、調理が行われると思うが、調理に業者が入ってうまくいくか。</p> <p>⑥ 関宮学園の後期（中学校）がなくなれば、やはり若い人は八鹿に住もうということになる。関宮の活気がなくなっていく。小さな拠点は、中学生の「居場所」としても考えていたが、整合性がない。</p> <p>⑦ 学校統合が新聞に発表される前に、小規模学校でまだまだやるべきことがあったのではないかと思う。議会は特別委員会を作ってもっと真剣に取り組むべきだ。</p>	<p>④ 民間に期待したり、いつになるか分からないようなあいまいな計画では問題である。歯科診療所も本当に必要なサービスなら、赤字を覚悟してでも市が直営で国保の診療所を立ち上げるなど、市として責任ある姿勢を見せるべきと考える。皆さんの意見を十分受け止めて、特別委員会も立ち上げているので、当局に求めるべきことは求めていく。</p> <p>⑤ 給食センター所長と栄養教諭はこれまで通り残り、調理員が民間事業者の雇用となる。私たちが不安に思っているのは、栄養教諭が直接調理員に指示すれば「偽装請負」という法律違反になり、これができない。したがって議会としては一度止めて、総務文教常任委員会で民間委託を行っている学校給食の視察や、参考人を招いて話を聞くなど、調査をしていくことにしている。</p> <p>⑥ 議会では、東京一極集中を批判しながら、養父市内では八鹿への集中が一層進むのではないかという声が出ている。人数が減るからという理由だけで、安易に統合を決めるのではなく、議論を重ねて慎重に決定していくべきだと考える。</p> <p>⑦ 市の基本計画である「まちづくり計画」に、「学校の適正配置には、子育て世代や地域住民の意見を聞きながら進める」と「病院、国保診療所の経営について最善の施策を行う」という一文を入れる修正をした。議会として市民の意見を反映させる場を作りたい。</p>

市 民	対 応
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他（提言など）</p> <p>① 学校統合、給食センターの民間委託、小さな拠点の問題など、様々な課題について、メリット、デメリットを徹底的に分析し、住民が理解・納得できる形で説明すべきだ。</p> <p>② 都市部の小中学校の自然学校・スキー学校の入込が著しく減っている。氷ノ山・鉢伏のみならず、市内観光に大きな影響を与えているが、どのように考えているか。</p> <p>③ 災害避難所だが、出合校区は二次避難所（指定避難所）が旧出合小学校になっている。取り壊しになるので、ここ（であいの里）は駄目かと聞いたら、木造だから駄目だということだった。公共施設が減っていく中でどんどん遠方になる。だから一次避難所（指定緊急避難所）の役割が重要になってくる。どのように考えているのか。</p>	<p>① 市民への丁寧な説明は求めていくし、われわれも委員会の中で、深く調査した結果を市民に伝えたい。</p> <p>② やぶ市観光協会と前市長が神戸市の学校に営業に回ったということもあった。先方の事情もあるが、事業者には魅力あるメニューをお願いしながら、復活に努力したい。生活環境常任委員会として、観光戦略を作ることを市に求めていく。</p> <p>③ 市は公共施設の削減に取り組んでいる。長期の避難生活を行う指定避難所は集約していくことになると思う。したがって発災後3～4日間、自助・共助で災害に耐える集落の公会堂などの指定緊急避難所が重要になってくる。しかし人口が少数の超高齢化集落で避難生活が可能か。もう一度細かい見直しが必要だと思う。</p>
<p>備考 なし</p>	

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和8年5月15日

報告者 3班 班長 浄慶 耕造